

取組概要

亀山市の中心部に位置し、全校児童444名の中規模校である。

当該校では、平成12年度から、キャリア教育の一環として、学校近隣の商店街で開催される「亀山大市」において、児童が出店しての販売活動を行ってきた。

「亀山大市」が新型コロナの影響で開催中止となったことで、これまでの販売活動が実施できなくなっていたが、令和4年度には、学校内で保護者等の学校関係者を対象とした販売活動「東っ子まつり」を開催している。

令和4年度の「東っ子まつり」を開催するにあたり、単なる販売活動に終わるのではなく、複数の児童で構成された模擬会社を設立し、会社ごとに販売する商品・サービスの考案、収支の予測、材料の仕入れ、試作品の製造、広告・宣伝の実施といった起業体験活動として拡充している。

令和5年度には、令和4年度の「東っ子まつり」での起業体験に係る取組に加え、4年ぶりに開催される「亀山大市」での出店も計画されており、地域の様々な方への販売活動を実施する予定である。

1. 起業体験の具体的な取組

起業体験活動を始めるにあたり、どのような商品を販売する会社があればよいかを、児童や保護者、教員に対して、アンケート調査を行っている。アンケート調査の結果を受け、児童が12のグループに分かれて会社を設立し、お客様の立場で考えた改善を重ねながら当日の販売・サービスの提供につなげている。

起業に関わる一連の活動では、「やってみよう」「やってみたい」という児童の気持ち大切に、児童自らが立案、実施することで主体性を育てている。

また、児童が商品の価格設定に悩む場合には、地元の起業家から助言をいただいたり、2回のプレオープンを実施し、接客時のトラブルへの対処方法を学んだりすることで、児童は課題解決に必要な力を付けている。

令和5年度は、これまでの取組に加え、職場体験を終えた中学生から「東っ子まつり」についてのアドバイスを聞いたり、高校生と協働して出店企画のためのグループ協議や商品案についての報告会を行ったりするなど、近隣の中学校や高校と連携した取組として発展させている。

また、亀山市の研究拠点校として、「生活科」、「総合的な学習の時間」における探究的な学びを深める授業実践を行い、本取組について域内の学校へ紹介するとともに、意見や助言をもとに、取組の改善を行っている。

2. 取組の成果

起業体験に取り組んだ児童は、「自分から意見を言ったり、自分がなんとかしようという行動が大切だと思った。」や「思ったことを言葉にして、相手に伝わるまで伝えることが大切だと分かった。」と振り返っており、様々な課題について仲間と協力して解決していくことや、地域の方をはじめ、幅広い年齢層の方々への接客を通して、「課題設定の力」や「協働的に学ぶ力」が育成されていることが分かる。

また、保護者に行っているアンケートからは、「自分の子どもが、様々な行事や体験活動に意欲的に取り組んでいるか。」の問いについて、肯定的な回答の割合が高くなっており、児童が主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む起業体験活動として実施されていることが分かる。